



### 選ばれる信頼形成— 創造力と挑戦が生んだ実績

[ 岩井整形外科内科病院 理事長・院長 稲波弘彦先生 ]

東京の人情味あふれる下町、江戸川区の小岩に、日本全国から、腰痛患者さんたちが稲波院長に診てもらいたいとやってくる岩井整形外科内科病院があります。

手術の技術の高さのみで選ばれているわけではありません。その特徴は患者さん自身の意思と 選択の尊重。患者さんに対して広く情報を開示、また多く用意した治療の選択肢に関して、ひとつひとつ丁寧に事前説明を行い、患者さんが納得して選べる治療を提供しています。さらに環境保護活動をはじめとする社会貢献で、社会人としての信頼も勝ち得ています。

取材：2010年7月



#### 院長プロフィール

腰椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術において全国トップの手術数を誇る、腰椎のスペシャリスト。外来、手術で一線に立ち、後進の指導にも力を注いでいます。病院も治療も患者さんが自身の価値観で選ぶものと考え、医療の質の向上、医療情報の開示、社会貢献に注力して信頼を形成。日本全国から患者さんが集まってきました。



#### 施設概要

住所：東京都江戸川区南小岩 8-17-2

電話：03-5694-6211

URL：<http://www.iwai.com/>

診療日時：初診 月曜～土曜 午前9:00～11:00 午後14:00～16:30

診療科目：整形外科、リウマチ科、形成外科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、内科、消化器科、循環器科

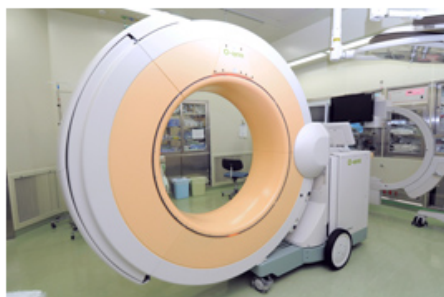
### やりたいことを尖らせて、日本全国から集患

1990年に稲波弘彦先生が岩井整形外科内科病院の院長に就任されたとき、経済的には決して楽な出発ではありませんでした。その中で稲波院長が選ばれた道は、自分自身やスタッフがやりたいことを研ぎ澄まし、その分野で傑出することでした。

現在、岩井整形外科内科病院は腰椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術数で全国トップ。技術認定医の手術時間が1時間程度であるのに対して、岩井整形外科内科病院の医師は、誰もが30分程度で手術を終えます。常により高みを目指すことを求められる医師の負担は大きいので、負担軽減が必要です。メディカルクラークを雇うなどして、医師が行わなくてもいいことは、医師以外の者が行うようになっています。

検査機器や医療機器も最先端のものを揃えています。より良い機械はより多くの情報を伝えてくれることにより、医師の判断を助けてくれるからです。先日も、まだ国内で導入している医療機関がほとんどない「移動型デジタル式汎用一体型X線透視診断装置」を購入したばかりです。医師にとっても短期間で多くの実績が積める魅力があります。研修医には病棟業務もありますが、毎日手術に参加することができ、半年でMED(内視鏡下椎間板摘出術)、MEL(内視鏡下椎弓切除術)の標準的な手術ができるように指導しております。

スタッフも機器も充実、ハイレベルな医療を提供する岩井整形外科内科病院には、日本全国から患者さんが集まってきました。



#### O-arm

移動型デジタル式汎用一体型X線透視診断装置「O-arm」。アジアで4台目、日本では2台目となる高価な最先端機器です。

## <研修医の1年目の目標>

MED 執刀30件(第一助手 200件以上) 最終的には1時間以内で終わることを目標とする

MEL 執刀10件(第一助手 50件以上)

ME-PLIF MED等の進捗により数件可能(第一助手 20件以上)

## 患者さん自身の価値観による選択を何よりも重視

岩井整形外科内科病院の理念は「医療を通じて、患者さんの幸せに資すること」です。稲波院長は「何が幸せかを決めるのは患者さん自身」であり、「たとえ手術が成功しても、患者さんが幸せにならなければ意味がない」と考えています。ですから結果だけでなく、手術後の入院期間の長さや手術後の痛みなど過程も重視しています。

内視鏡下椎間板摘出術、経皮的椎間板摘出術、内視鏡下椎体間固定術、レーザー椎間板減圧術、鏡視下手根管開放手術、経皮的ラジオ波椎間板焼却・摘出術など、疼痛が少なく、入院期間が短い低侵襲な手術を中心に、患者さんが自分の価値観で治療を選べるよう、多くの選択肢を用意しています。

患者さん自身の選択を重視しているため、事前の説明は医療的な治療成績も含めて徹底的です。何をもち「効く」と言うのか、何%の患者さんにどうい問題が起こったか、悪い情報も隠すことなく、すべてを伝えます。保険の適応がない手術でも選択肢から外しません。十二分な説明を行ったうえで、患者さんが望めば、保険適応外の治療も行います。自費の患者さんへの対応が、さらに岩井整形外科内科病院の医療の質を高めてきました。

## 集患の秘訣は、医療機関としての信頼獲得

事前の丁寧な説明、高い治療成績があっても、患者さんの手術への不安はぬぐいきれません。患者さんにとって、手術は常に怖いことであり、常に失敗するのではないかと心配しています。

そこで岩井整形外科内科病院では、患者さんに対して、徹底した情報開示を行っています。X線写真はもちろん、CTやMRI、血液検査などの臨床データを患者さんに開示しているので、患者さんがセカンドオピニオンを求めることも容易です。患者さんが希望すれば、インターネットによる診療情報公開、レントゲン画像のCDでのお渡し、診療録の印刷も行います。内視鏡手術は全てビデオ録画です。希望する患者さんには内視鏡手術のDVD、CTやMRIの画像データ、それ以外の臨床データもお渡します。その内視鏡手術のビデオは、院内の端末にて医師がリアルタイムで見られるようになっています。情報開示は、患者さんに安心を与えると同時に、医師を律するチェック機構としても機能しています。さらに院内の平均在院日数を調べ、在院日数が平均在院日数を一定以上に上回った症例に関しては、担当医に説明を求めると、治療の質を確保するために、常にチェックの手を緩めません。

## 「医療人である前に社会人たれ」

医療従事者が専門性と同時に、人間性の向上に精進することが大事だとする、ある医師の言葉に感銘を受けた稲波院長は、常々、スタッフに対して、「医療人である前に社会人たれ」と言っています。そして、健康に関する啓蒙活動を行ったり、国内外を問わず手術見学を受け入れたりと、広く医療の向上を支援しているのみならず、さらなる社会貢献活動を行っています。

その社会貢献活動のひとつが「NPO法人日本治療的乗馬協会」の活動の支援です。「NPO法人日本治療的乗馬協会」は、馬と触れ合ったり、馬の世話をしたり、馬で運動することなどにより、障児から高齢者まで、障害のある人々の心や身体を健康を回復させる「治療的乗馬」を適切に発展させ、普及すべく、活動しています。

手術分類	手術名	開始時期	総件数	
内視鏡手術	MED(内視鏡下椎間板摘出術)	平成13年12月	1858	
	MEL(内視鏡下椎弓切除術)	平成14年7月	484	
	ME-PLIF/TLIF(内視鏡下椎体間固定術)	平成20年11月	213	
	MECD(顕微鏡内視鏡下椎間板摘出術)	平成21年7月	51	
	PELD(経皮的内視鏡下椎間板摘除術)	平成21年6月	157	
最小侵襲治療	PN(経皮的髄核摘出術)	平成16年11月	600	
ラジオ波治療	RF(経皮的ラジオ波椎間板焼却)	平成20年12月	26	
レーザー治療	PLDD(経皮的レーザー椎間板減圧術)※腰	平成9年5月	37	
	PLDD(経皮的レーザー椎間板減圧術)※首	平成10年9月	79	
			計	3505

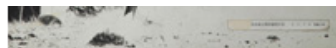
平成9～22年 腰椎・脊椎の最小侵襲治療・手術の総件数  
拡大



手術映像リアルタイム配信システム(内視鏡手術)  
最先端の機器が揃った手術室。モニターに映っている内視鏡手術のビデオは録画されていて、希望患者さんに開示しています。



実は稲波院長のお父上は、ベルリンで行われた第11回オリンピックで入賞もした馬術の選手であり、稲波院長ご自身も学生時代に東京六大学馬術大会で優勝されました。そんな馬との縁もあり、稲波院長は「NPO法人日本治療的乗馬協会」の副理事長として、その活動支援に力を注いでいます。



#### 学生時代は馬術の名手

稲波院長は東京大学の学生時代には、東京六大学馬術大会で優勝するなど、馬術の名手であり、現在、「NPO法人日本治療的乗馬協会」の副理事長として、活動を支援しています。

## 本気での環境保護活等で信頼獲得、世界を医療圏に

人の健康同様、地球環境の健康のために積極的に参加すべきと考え、岩井医療財団では1999年という早い時期から、二酸化炭素排出削減を開始しました。2000年には環境保全委員会を立ち上げて取り組みを本格化させ、2007年9月には二酸化炭素削減を目指す国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加、2008年8月に医療法人として初めて二酸化炭素排出権を購入、**カーボンオフセット(二酸化炭素排出量相殺)**を達成しました。2010年2月からは、1990年比温室効果ガス25%削減のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。

岩井医療財団の環境保護活動は広範囲に渡っています。たとえば身近なところでは病院の建物をおおうグリーンカーテン。つる性の植物をネットに這わせ、窓の外をおおって作る自然のカーテンであり、葉が夏の日光を遮って、室内の温度を低くしてくれます。十分に葉が茂ったグリーンカーテンなら、窓から差し込む日射の熱エネルギーを8割以上シャットアウトするそうです。岩井整形外科内科病院ではゴーヤを育てていて、緑の葉で猛暑を遮りながら、立派な実まで収穫しました。



#### ゴーヤの写真

窓をおおうゴーヤの豊かな緑のカーテンが、キラキラした夏の日光を優しく遮って、エコな涼しさを生み出しています。

また、ペットボトルのキャップを回収して、再資源化事業者に販売することで得られた売却益の一部を開発途上国の子どもへのワクチン代として寄付する「エコキャップ運動」にも取り組んでいます。

自分たちが実践するだけでなく、患者さんへの啓発活動や、学会での環境問題に関する教育研修講演など、院内・院外での啓発活動にも熱心です。岩井整形外科内科病院では入院患者さんに環境問題への取り組みについてご説明して、賛同いただいた患者さんやご家族から1日30円の寄付をいただき、同時に岩井医療財団も30円を拠出して、合計60円分、二酸化炭素排出権の購入費に当てています。患者さんが退院した後も環境への関心を持ち続けていただけるようこと、ご寄付いただいた患者さんやご家族に対しては、感謝状も贈っています。



#### 感謝状の写真

二酸化炭素排出権購入にご協力くださった患者さんへの感謝状。退院後も環境保護に思いを寄せていただく効果も狙っています。

岩井整形外科内科病院は、医療の質から、患者さんの意思の尊重、社会貢献まで、さまざまな面で患者さんの信頼を獲得、その結果として、日本全国から患者さんが集まる病院となりました。稲波院長は今後さらに視野を広げて、患者さんと医療従事者の双方が幸せになれる医療を提供していきたい、と夢を語ってくださいました。